

星城高等学校創立45周年記念式典 & 第45回学園祭



名古屋市公会堂にて

「第45回学園祭」
テーマは、「オールスター～みんなが主役～」
学校長挨拶

「皆、違って、皆、良い」

童話の「猿蟹合戦」「桃太郎」の話の中に、栗、白、とか犬、雉子、猿等々の様々な物や動物が登場してきます。そしてそれぞれの持っている力量を発揮して立場、役割を果たして、事が解決していきます。星城生1600人がそれぞれの持味を出し切って学園祭を盛り上げてください。



永年勤続表彰者 代表謝辞
伊藤 正人

「創立45周年記念式典」

本日の式典に先立ち、物故者に対し黙祷をささげました。この黙祷中に私のまぶたの裏に何人もの先生のお姿がよぎってまいりました。私を星城高等学校にふさわしい教師に導いて下さった先輩の諸先生方、そして同僚、言うまでもなく創立者、石田鑑徳先生も忘れられないお姿として鮮明に思い浮かんでまいりました。生前の鑑徳先生に直接に教えを受けた最後の職員とします。今日の創立記念日を機に、職員も生徒諸君も心を一つにしてこの誇るべき精神を具現化していく様、一層精進していく事を皆で誓い合いたいと思います。

平成19年度永年勤続表彰者は、次の方々です。

40年勤続 石田 正城(理事長・学園長) 30年勤続 伊藤 正人(星城高等学校) 20年勤続 森 正信(星城高等学校) 10年勤続 高 敦志(星城高等学校)
石川 暢夫(星城高等学校) 大須賀 雅美(星城大学)

創立45周年 第42回星城高等学校 同窓会総会



修徳館にて

星城高等学校創立45周年にあわせ、同窓会総会が新設なった校舎で開催されました。

第1回生が還暦を迎える歳でもあり、さまざまな分野で活躍されている卒業生を紹介し、その活躍ぶりを称え、アピールしました。

星城美術館の中では、絵画や彫刻など芸術分野で活躍されている同窓生の作品を集め展示し、また、F1やインディーカーシリーズなど、世界で活躍するレーシングドライバーが4名もみえるということで、トヨタ自動車の協力で、F1のレースカーを校内に特別展示しました。

学校の大切な財産である卒業生のさまざまな分野での活躍をこれからも紹介していきます。



星城中学校創立15周年記念式典 & 第15回感謝祭

～テーマは、“While there is life, there is hope.”～

「創立15周年式辞」

橋本左内『幕末の志士 29才で安政の大獄により斬刑(1834～1859)』15才で『啓発録』を著わした。その5つの教訓に、①「去稚心」、稚心を去るというのは、自分を甘やかしたり、自分勝手にしたり、自分の都合を優先したり、親の保護に甘えたり、責任を転嫁したりするような心を捨てる、ということ。②「振気」、振気というのは「気を振るう」ということ。何か事を始めようとする時、必ずしもやる気満々で取り組めることばかりではない。そんな時、腹に力を込めて、さあ頑張るぞと気合を入れ、気をふるいたたせることであり、③「立志」、志を立てる。④「勉学」、勉めて学ぶ。⑤「択交友」、交わる友を選ぶ。というものがあります。

星城中学校の諸君も、このこれからの成長のためにこの教訓を心していただきたいと思います。



校長 石田 正城

記念講演会「いのちみつめて」

25歳の時に、慢性骨髄性白血病と診断され、生存率わずか1%という状態から奇跡的に母親の型が適合し、骨髄移植を受け生還しました。今は、日本初の骨髄バンクを作るプロジェクトを発足し、全国骨髄バンク推進連絡協議会会長として「いのちの重み」を伝える活動に奔走しています。

「一人では何もできない、しかし誰かが声を上げないと何も始まりません。自分は多くの人に支えられて生きていること、自分がどうすれば人の役に立てるかを考えること、そして共に行動してあげることが心がかけてください。」



大谷 貴子 さん

内観体験発表での和尚様挨拶

星城中学校では、毎年、1年生全員が参加して5泊6日の内観を行っていただいております。

最近、日本の国では日本人としての「型」がなくなっていると感じます。

専光坊の教えではその型を重んじています。星城中学校の建学の精神は型であります。

内観では感謝の心を養うために両親特に母親について今日までしていただいたことを見つめます。

星城中学生としての「型」や「感謝の心」を身につけ将来、立派な大人に成長する事を願っています。



専光坊 宇佐美之規 さん



全員合唱「大地讃頌」

生徒、教員、保護者のみなさんでプロの方に習い、混声四部合唱を完成させ発表しました。



クラス発表

全編を英語で演じました。

2A「Selfish Angel」